

代表者：y220165 古川絢奈

メンバー：y220192 井上想子

y220194 谷口ひとみ

アドバイザー教員：山本哲男先生

## 1. 目的

本プロジェクトでは、宇治～宇治田原町を期間限定で運行する「宇治やんたんライナー・やんたんライナーコネクト」の利用促進を図るとともに、宇治田原町を活性化させることを目的とする。

## 2. 背景

私たちの活動拠点である宇治田原町は観光資源が豊富であるにも関わらず、観光が少なかった。また、主要交通機関であるバスも観光目的で利用する人が少なく、生活手段というイメージが強かった。私たちはそれが、魅力的な情報の発信が個々でされており、情報が散乱しているため、観光コースや観光プランが計画しづらいことに原因があると考えた。そこで、期間限定で運行される観光バス「宇治やんたんライナー・やんたんライナーコネクト」の路線に沿っており、かつ魅力スポットの情報がまとめられた特設専用ホームページを作ることで、バスを利用して宇治田原町へ足を運んでもらうことを目指した。

## 3. 計画

### (1) 宇治田原町視察・取材（6月中旬～7月下旬）

「宇治やんたんライナー・やんたんライナーコネクト」の停留所周辺のお店や寺院、写真スポット等取材・撮影し、情報・素材収集を行う。

### (2) コンテンツ制作と SNS 発信（7月中旬～8月下旬）

視察で取材した魅力スポットの紹介をホームページ制作や SNS を用いて行う。ホームページには宇治田原町のキャラクター「茶ッピー」を用いたチャットボットを作成し導入する。

### (3) 分析・考察（8月下旬～9月中旬）

ホームページのツール機能を利活用して、どのコンテンツ・ページが多く見られているかを分析する。そして、京都京阪バス(株)様にバスの利用者数に関するデータを提供していただき、バスの利用者数の増減を調べる。

## 4. 活動内容と経過

### (1) 宇治田原町視察・取材（6月中旬～7月下旬）

停留所周辺の魅力スポット取材し、お店の歴史やおすすめ商品など、実際に聞いた情報をまとめた。また、ホームページ掲載の許可を取り、コンテンツ制作に必要なものを準備した。

## (2) コンテンツ制作と SNS 発信 (7月中旬~8月下旬)

### ① ホームページ制作

視察を通じて収集した情報・写真を用いて、お店や寺院の生の声を学生目線で紹介。

「宇治やんたんライナー・やんたんライナーコネク」停留所ごとに、カテゴライズすることで「宇治やんたんライナー・やんたんライナーコネク」特設専用ホームページに仕上げた。また、停留所周辺スポット以外にも、緑茶発祥の地である宇治田原町の「茶」にまつわるコンテンツや観光スポットの四季の紹介ページなどを作成し、宇治田原町の魅力がより伝わるコンテンツを作成した。



### ② チャットボット導入

宇治田原町のキャラクター「茶ッピー」を用いてチャットボットを作成した。選択式で「茶ッピー」との対話を通して、停留所周辺のスポットへ案内するものになっている。キーワード検索も可能でキーワードにヒットした観光スポットを提示する。

また、海外の方にも利用してもらうことを目的に、英語でも表示させた。



### ③ 機能を追加してブラッシュアップ

海外の観光客の方たちも閲覧できるように多言語翻訳機能を追加した。また、SNS ボタンリンクなども追加することで、SNS も閲覧を促した。



### ④ SNS 情報発信

Instagram や X を利用して、私たちが取材を行ったお店や寺院の紹介投稿や、随時イベント情報などを発信。

### (3) メディア掲載における取材

新聞や雑誌に掲載していただいたり、ラジオに出演したりした。様々な取材を通して、私たちの活動に対する思いや活動を通じて感じたこと、そして宇治田原町の魅力などについて伝えた。

#### <掲載メディア一覧>

読売新聞、朝日新聞、京都新聞、洛タイ新聞、月刊茶の間、京都三条ラジオカフェ、龍谷大学公式ホームページ

### (4) 分析とポスター・レポート作成

京都京阪バス(株)に宇治やんたんライナー・やんたんライナーコネク트의利用者数に関するデータを提供していただき、前年と比べバスの利用者がどう増減したかを調べた。その結果をもとに、私たちの活動の効果を考察し、ポスターと活動報告書にまとめた。

## 5. 結果と考察

取り組みの結果、「宇治やんたんライナー・やんたんライナーコネク트의」の1日当たりの利用者数は前年と比べ1.7倍に増加した。これは私たちが行ったホームページ制作や Instagram や X を用いての情報発信による効果があったと考えられる。また、私たちのこの活動自体が新聞や雑誌、ラジオなど様々なメディアに取り上げられたことも大きな要因の一つだと考える。「メディア戦略・IT 戦略を活かして取り組んだ情報発信」と「学生が主体となって活動したという話題性」が相乗効果を生み、このような実績を残すことができたと考える。

## 6. 今後の展望

宇治田原町の方に引き継ぐ方針で進めていく。誰でも簡単に操作できる形にして、宇治田原町の方に HP を仕様書とともにお渡しする。宇治田原町の方が運営できるかたちで引継ぎを行う。

<制作 HP>

URL : <https://www.yantan-liner.jp>

<読売新聞記事>

URL : <https://www.yomiuri.co.jp/20240903>

<朝日新聞記事>

URL : <https://www.asahi.com/articles/20240907>

<京都新聞記事>

URL : <https://www.kyoto-np.co.jp/articles/20240830>